

※お詫び

7ページの作品「花時計」が途中までとなっておりませんでした。完全作をこちらに掲載します。申し訳ありませんでした。

花時計

三時はラベンダー

君のくれた時計には

何も描かれていない

一時間ごとに

花の香りが変わる

四時はヒヤシンス

君が育てていた

青い花びらに

悲しさを感じていた

記憶がよみがえる

その他には

知っている香りがない

五時は優しく

六時はとがっている

七時は深く深く

八時は浅く広い

どこかで出会っただろうか

いつか教えてくれただろうか

花を見るたびに

香りが気になって

香りをかぐたびに

時間が気になって

君のことを忘れていく

三時はラベンダー

コーヒーを淹れて

チョコレートを一とかけら

かじるのがいい

四時はヒヤシンス

ボサノヴァの中で

何も考えず

揺れるのがいい

香りを知らない

時間の中で

全ては淡々と

進展していく

香りを知らない

時間の後で

三時と四時は

常に訪れる

この香り

あの香り

その香り

好きな香り

苦手な香り

薄い香り

眠い香り

ラベンダーは三時

ヒヤシンスは四時

そしてそれ以外

時間が進んでいく

世界が巡っていく

過去が崩れていく

未来が襲ってくる

香りが 怖い